

日本工学院八王子専門学校	開講年度	2019年度（平成31年度）	科目名	放送映画リテラシーD2（プロデュース論）
<b>科目基礎情報</b>				
開設学科	放送芸術科	コース名		開設期 後期
対象年次	2年次	科目区分	必修	時間数 30時間
単位数	2単位	授業形態	講義	
教科書/教材	毎回レジュメ・資料を配布する。参考書・参考資料等は、授業中に指示する。			
<b>担当教員情報</b>				
担当教員	宮川佳己	実務経験の有無・職種	有・制作業務	
<b>学習目的</b>				
テレビ局内の業務を各部署や業務単位で幅広く解説します。技術的なはなしや制作に関することは他所で学ぶ機会も多いので、ビジネス視点での実例を多く取り入れた授業展開 プロデュースとクリエイターの違いを理解することで求められる知識、見識、認識の幅を広げる				
<b>到達目標</b>				
制作（演出・ディレクター）と技術の知識だけでなく、プロデュースの観点からお金を生み出す側を知ることで、番組、テレビ局全体の構造を俯瞰できるようになることを目指す。				
<b>教育方法等</b>				
授業概要	現場での経験を踏まえて、出来る限り実例を交えて本音で授業を展開します。業界を目指す人達にとって興味深い内容に成るように留意します。 授業展開によってはワークショップを行い、課題提出も有ります。			
注意点	キャリア形成の観点から、授業中の私語や受講態度などには厳しく対応する。 理由のない遅刻や欠席は認めない。授業に出席するだけでなく、社会への移行を前提とした受講マナーで授業に参加することを求める。ただし、授業時数の4分の3以上出席しない者は定期試験を受験することができない。			
評価方法	種別	割合	備 考	
	試験・課題	80%	試験結果で評価する	
	小テスト	0%		
	レポート	0%		
	成果発表 (口頭・実技)	0%		
	平常点	20%	積極的な授業参加度、授業態度によって評価する	
<b>授業計画（1回～15回）</b>				
回	授業内容	各回の到達目標		
1回	映像コンテンツ及び映像制作総論	マルチメディア時代と映像クリエイター現状と将来性		
2回	制作フローとスタッフ編成と役割	制作現場の全体を知ること、プロデューサーの仕事学ぶ		
3回	プロデュースするという事は	プロデューサーの責任、マネジメントを学ぶ		
4回	テレビビジネス・営業	テレビ局のビジネスモデルと視聴率、テレビ営業の仕組みと広告代理店を学ぶ		
5回	バラエティー番組 プロデュース	ワイドショー、情報バラエティー、お笑い、クイズなどの番組構成を理解する		
6回	商業映像 プロデュース	受信料と広告収入、番組はCMの為に、プロデューサーVSディレクターなどを学ぶ		
7回	ドラマ プロデュース	キャスティング、予算、スポンサーなどドラマ制作の手順を学ぶ		
8回	映画 プロデュース①	テレビドラマの映画化、映画業界の繁栄と衰退、ハリウッドを知る、などを学ぶ		
9回	映画 プロデュース②	映画制作委員会を知ること映画業界のお金の流れを理解する		
10回	スポーツ プロデュース	スポーツ大会、スポーツ番組の制作、お金の流れを理解する		
11回	ニュース、報道 プロデュース	新聞とニュース番組の違い、報道番組の生業を理解する		
12回	インターネット番組 プロデュース	インターネット番組の需要と供給を知る		
13回	企画プロデュース演習①	番組の企画、プランニング、プロデュースを考えて発表する		
14回	企画プロデュース演習②	CMの企画、プランニング、プロデュースを考えて発表する		
15回	授業復習	試験対策として全授業の復習をする		